

## 第 11 回 議会報告会 北小野地区 記録（概要）

令和元年 1 月 25 日（月） 午後 7 時から 北小野地区センター

### ◎テーマ 1 国道 153 号バイパス化事業について

- (1) 横沢議員から説明
- (2) 赤羽区長から説明

#### 【質疑内容】

(市民)

上田に住んでいて、どこへ行くにも国道を渡らなければいけないが、北小野には点滅の信号が一箇所あるだけで他にはない。

農協付近に横断歩道があるが、時間帯によっては渡るのに 5～6 分はただ立っているだけでなかなか渡れない。信号機を設置してもらうかバイパスを早期にやってもらうかだが、農協かお宮のところに信号機を付けてもらいたい。

答 横沢議員

以前から、お宮前の県道との交差点へ信号機を設置することについて公安と相談したり協議してきたが、御承知のとおり県道の幅員が狭く、また勾配があるということで、フラットなところがないと信号機の設置は出来ないと事である。また、今の県道の幅員では駄目ということなので、県道改良の二期工事に合わせて、それが出来たら信号機の設置ということになっている。

(市民)

生活道路と同時に災害時の交通に支障を来すことになる。以前、大雪が降った時にどこも通れなくなった。伊那に抜けるにしても道路幅が狭いため大津屋から南小野までトラックのすれ違いも出来ない状況となつてしまったので、そうしたことも含めて早期のバイパス開通を望む。

答 横沢議員

平成 18 年には通行止めになったことがある。雪では平成 11 年にも大雪があり、その後もあるが、提言活動の中で、153 号線は東南海地震が起きた時などには緊急輸送道路になっていることも踏まえ必要性を訴えているし、中南信の連絡を取りながら進めることが必要で、県会でも重要性の意見が出たと聞いている。期成同盟会があり、その中での順位付け

もあってなかなか進まない面もあるが、引き続き要望していきたい。

(市民)

バイパスについてAルートとBルートがあるが、ぼつぼつどちらかに集約した方がお願いし易いのではないか。また、A、Bそれぞれのメリット・デメリットと、どうしてこうなっているのかお聞きしたい。

答 横沢議員

振興会の中で2案にまとめたのは、辰野までは色々な道があるが辰野から塩尻へは153号一本しかなく、ボトルネックとなっており幅員も狭い。その振興会の中でパークラインに合わせていこうと言う事で、小野公園の前を通り県道と合わせていって勝弦では一部トンネルとなって、みどり湖の温泉郷あたりでつなげたいと思っている。

しかし、ここは県の施工エリアであるが予算は付いていない。県でも何とかやりたいと思っているが、県の構想は国と違って現実的に考えるためAルートだと非常にお金がかかり、当時とすれば150億円ぐらいと言っていた。いずれにしても、一度にはできないので途中まで迂回させて、その後を県がやっていくとすれば、この様な方式になるのではないかと言われたものである。

この区間は、県の早期直轄編入要望区間となっているので、県から要望してもらいながら、こうしたルートになればと思っているところです。

(市民)

今の話だと、Aルートは金がかかるのでBルートの方が有力だと受け取ったがそれでよいか？

答 横沢議員

そうではなく、私が聞いているのは、Aルートを一度に県の事業としてやるのは難しい、例えば神社のところに出る県道の拡幅計画があるわけだが、辰野方面から来てそこへ迂回させて、それが出来たら次へということであり、Bルートの方が有力とかでなく段階的に進めるという事である。

(市民)

Aルートは駅の裏を通るということか、Bもそういうことか？

答 横沢議員

途中まではそういうことである。

(市民)

Bルートは駅に近い所を通るということか？

答 横沢議員

それは違う。Bルートは昔あったルートで、善知鳥トンネルに繋げることになっていましたが、御破算になったもの。そこまでしっかりと議論したものでなく、あくまで北小野振興会として書いた絵である。従ってこういう形でお願いしたいということで県や国に要望したもので、認知されたものではない。

## テーマ2 鳥獣害対策について

- (1) 赤羽区長説明
- (2) 横澤幸男氏 AI・IoT技術活用課題解決について説明

### 【質疑内容】

篠原議員

サル的位置情報の取得について大変いい話だと思う。北小野のセンサーは引き続きやっているのか？

答 横澤氏

結果論として、そこに人が来ることが大切だ。視察が毎日来ていたし、そこで農業をする人も増えている。ということで、センサーや機器はトリガーにはなるが、里山保全の最終形はそこに人が行ってもらうことだと思う。

センサーが今でも動いているかということは、動いていなければメンテナンスをサボっていたということになってしまうが、今度検知センサーに変える。その場所はもともと無線エリアがあったのでセンサーを置いたが、今、開発しているものはローラと呼ばれるシステムで、中学生のアントレプレナーに使っているもので、霧訪山から両小野中まで届く無線でやる。また、今、上西条で気象センサーは同じシステムでデータを取っている。

サルにコココーリを付けることは、オリに餌を付けてそこに入れなければいけない。それをやると言う事はサルを引き寄せ、群れを呼ぶことになり里ではできない。山の中でやることになる。そうすればメンテは誰がやるかということになる。実情は大変な面もあり、まずはGPSを付けてサルの実態を見てから、オリ、捕殺などの対応をとることが必要ではないか。

丸山議長

首輪について、どの様に付けるのか？

答 横澤氏

聞いた話ではあるが、首輪をつけるにはオりに捕まったサルに付けるのがよく、しかもメスの成獣に付けるのが一番いいとのことである。それには猟友会の協力が必要であるが、猟友会は既得権のサルレンジャーや見回りとかの予算がこれに抛り減ることを懸念している面がある。県は予算付けしており書類作成は少々手間だが手続きが必要。

また、被害は農政課、対策は林務課と言う事が壁になっているのではないか。こうしたことから、変なところで議論が止まってしまう事があるので前向きに検討することが必要ではないか。